

# 日本歯科大学新潟短期大学学則

平成29年4月1日



# 第1章 総 則

(目 的)

第1条 本学は、学校教育法に基づき、歯科衛生に関する専門の知識と技術を教授研究し、高度な歯科衛生士の育成を図ることを目的とする。

## 第2章 学科、学生定員および修業年限

(学科および定員)

第2条 本学において設置する学科およびその学生定員は、次のとおりとする。

学 科	入学定員	収容定員
歯科衛生学科	50人	150人

(修業年限および在学年限)

第3条 本学の修業年限は3年とする。

2 学生は、6年を超えて在学することはできない。

3 前項の規定にかかわらず、教授会の議を経て、学長が決定する場合は、制限年数を超えて在学することができる。

## 第3章 学年、学期および休業日

(学 年)

第4条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学 期)

第5条 学年を次の2学期に分ける。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第6条 休業日は、次のとおりとする。

日曜日

土曜日

国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

日本歯科大学創立記念日 6月1日

春期休業日 4月1日から4月5日まで

夏期休業日 8月1日から8月31日まで

冬期休業日 12月25日から翌年1月10日まで

2 必要がある場合、学長は前項の休業日を臨時に変更することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長は臨時の休業日を定めることができる。

## 第4章 入学、退学および休学

(入学の時期)

第7条 入学の時期は学年の始めとする。

(入学資格)

第8条 本学に入学することのできる者は、次の各号の1に該当する者とする。

- 一 高等学校を卒業した者
- 二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- 三 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、これに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- 四 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 五 文部科学大臣の指定した者（昭和23年文部省告示第47号）
- 六 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

(入学の出願)

第9条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に検定料を添えて提出しなければならない。

(入学者の選考)

第10条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

(入学手続きおよび入学許可)

第11条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに本学所定の書類を提出するとともに、所定の入学金および学費を納入しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(退学)

第12条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(休学)

第13条 疾病その他やむを得ない事情により3か月以上修学することのできない者は、医師の診断書または詳細な理由書を添えて休学願を提出し、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学の期間)

第14条 休学の期間は、その年度の3月31日をもって期限とし、1年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合は、引き続き更に1年まで延長することができる。

2 休学の期間は、通算して3年を超えることができない。

3 休学の期間は、第3条第2項の在学年限に算入しない。

(復学)

第15条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

(除籍)

第16条 次の各号の1に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

- 一 第3条第2項に定める在学年限を超えた者
- 二 第14条第2項に定める休学の期間を超えてなお修学できない者
- 三 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- 四 同一学年に引き続き2年留年した者

(復籍)

第17条 前条の第二号または第三号により除籍された者について、その理由が消滅した場合は、保証人連署のうえ復籍願を提出し、教授会の議を経て学長の許可を受け、復籍することができる。

2 その他復籍に必要な事項は、別に定める。

## 第5章 教育課程および履修方法等

(授業科目)

第18条 授業科目を分けて、基礎分野、専門基礎分野、専門分野および選択必修分野とする。

2 授業科目、単位数は別表1のとおりとする。

(単位の計算方法)

第19条 各授業科目の単位数は、次の基準により計算する。

- 一 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- 二 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- 三 実験、実習および実技については、45時間をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、学修の成果を評価して単位を授与することが適当と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位を定める。

(単位の認定、進級判定)

第20条 単位の認定および進級判定は、試験の結果および出欠席の状況等を総合的に審査して、教授会の議を経て、学長が行う。

(学修の評価)

第21条 試験等の評価は評点をもって表わす。

2 進学・就職用等の成績表は、秀、優、良、可、不可の評語とする。

(既修得単位の取扱い)

第22条 他の短期大学または大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1学年次に入学した学生の既修得単位については、教育上有益と認めるときは、本学において修得したものとして認定することができる。

2 前項の単位認定は、合計15単位を超えない範囲で行う。

## 第6章 試 験

(試験の時期)

第23条 試験は、学期の終わり、または授業の終わったときに行う。

(試験の方法)

第24条 試験の方法は、筆記、口述、または実地試験とする。

(休学した者の受験の制限)

第25条 休学した者は、その学年の試験を受けることはできない。

(受験の要件)

第26条 試験は、授業料等を完納した者でなければ、受けることはできない。

2 第27条、第28条の試験を受ける者は、前項のほかに追試験料、再試験料を納入しなければならない。

(追試験)

第27条 試験の当日病気その他やむを得ない理由のため、試験を受けることができなかった者は追試験を受けることができる。

(再試験)

第28条 試験に不合格となった者は、再試験を受けることができる場合がある。

## 第7章 卒業の認定および短期大学士の学位授与

(卒業の要件)

第29条 本学を卒業するためには、学生は3年以上在学し、別表第1に定めるところにより93単位以上を修得しなければならない。

(卒業の認定)

第30条 本学に3年以上在学し、本学則に定める授業科目および単位数を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

(短期大学士の学位授与)

第31条 本学を卒業した者には、日本歯科大学新潟短期大学学位規則の定めるところにより、短期大学士（歯科衛生学）の学位を授与する。

## 第8章 検定料、入学金、授業料、その他の費用

(検定料等の金額)

第32条 本学の検定料、入学金、授業料等の金額は、次のとおりとする。

(歯科衛生学科)

検 定 料	20, 000 円
入 学 金	300, 000 円 (入学時のみ)
授 業 料	640, 000 円 (年額)
施設維持費	100, 000 円 (年額)

(授業料等の納入期)

第 33 条 授業料その他の学費は、所定の期日までに納入しなければならない。ただし、特別の事情があると認められる者は、延納を認めることがある。

(退学および停学の場合の授業料)

第 34 条 学期の途中で退学し、または除籍された者の当該期分の授業料は徴収する。

2 停学期間中の授業料は徴収する。

(休学の場合の授業料)

第 35 条 休学を許可されまたは命ぜられた者についても、授業料は納入しなければならない。ただし、前・後学期の各学期始より、継続して学期中の休学を許可された者または命ぜられた者については、当該学年の授業料等を減額することができる。

(納付した授業料等)

第 36 条 納付した検定料、入学金および授業料等は原則として返還しない。ただし、理事長が認める場合は返還することができる。

## 第 9 章 教職員組織

(教職員組織)

第 37 条 本学に学長、学科長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員、その他必要な職員を置く。

## 第 10 章 教 授 会

(教授会)

第 38 条 本学に教授会を置く。

(教授会の構成)

第 39 条 教授会は学長、学科長および教授をもって組織する。

2 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認めたときは、教授会に准教授、講師、およびその他の教職員を加えることができる。

3 教授会は、次の事項について審議し、学長が決定するに当たり意見を述べる。

(1) 学生の入学、卒業、および課程の修了に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 前 2 号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、学長が教授会の意見を聴くことが必要であると認めるもの

4 教授会は、前項に規定するもののほか、学長の求めに応じ、学長、学科長およびその他の長による教育研究に関する事項について審議し、意見を述べることができる。

(その他)

第 40 条 本章に定めるもののほか、教授会に関する必要事項は別に定める。

## 第 11 章 賞 罰

(表 彰)

第 41 条 学業操行の優秀な者は、教授会の議を経て、学長が表彰する。

(罰 則)

第 42 条 本学の規則に違反し、または学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、訓戒、停学および退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の 1 に該当する学生に対して行う。

一 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

二 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者

三 正当な理由がなくて出席が常でない者

四 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

## 第 12 章 専 攻 科

(目 的)

第 43 条 本学に専攻科歯科衛生学専攻、専攻科在宅歯科医療学専攻および専攻科がん関連口腔ケア学専攻（以下「本専攻科」という。）を置き、学科における基礎的知識の上に、更に専門的知識および高度な技術を修得し、先端的専門歯科治療に対応できる歯科衛生士を育成するとともに、専攻科歯科衛生学専攻においては、指導者となりうる歯科衛生士として学士の取得を支援することを目的とする。

(定 員)

第 44 条 本専攻科の入学定員および収容定員は、次のとおりとする。

専 攻	入学定員	収容定員
歯科衛生学	5 人	5 人
在宅歯科医療学	3 人	3 人
がん関連口腔ケア学	3 人	3 人

(修業年限および在学年限)

第 45 条 本専攻科の修業年限は 1 年とする。

2 学生は、修業年限の 2 倍を超えて在学することはできない。

(入学資格)

第 46 条 本専攻科に入学することのできる者は、次の各号の 1 に該当する者とする。

一 短期大学を卒業した者で、歯科衛生士免許を有する者



- 二 大学への編入学が認められた専修学校の専門課程を修了した者で、歯科衛生士免許を有する者
- 三 外国において、学校教育における 14 年の課程を修了し、前各号に規定する者に相当する者
- 四 本専攻科において、前各号に規定する者と同等の学力があると認められた者で、歯科衛生士免許を有する者

(授業科目および単位数)

第 47 条 本専攻科において開設する授業科目および単位数は、専攻科歯科衛生学専攻においては別表 2 のとおりとし、専攻科在宅歯科医療学専攻は別表 3、専攻科がん関連口腔ケア学専攻は別表 4 のとおりとする。

#### 第 48 条 削除

(修了の要件)

第 49 条 本専攻科を修了するためには、1 年以上在学し、専攻科歯科衛生学専攻は別表 2、専攻科在宅歯科医療学専攻は別表 3、専攻科がん関連口腔ケア学専攻は別表 4 に定めた所により 31 単位以上を修得しなければならない。

(修了の認定および修了証書)

第 50 条 所定の課程を修め、所定の単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が修了の認定をする。

2 学長は、修了を認定した者に対して修了証書を授与する。

(検定料、入学金、授業料等の費用)

第 51 条 本専攻科における検定料、入学金、授業料等の金額は、次のとおりとする。

検定料	10,000 円
入学金	100,000 円
授業料	400,000 円
施設維持費	50,000 円

2 検定料および入学金については本学卒業者に限り全額免除する。

(準用規定)

第 52 条 第 4 条から第 7 条まで、第 9 条から第 17 条まで、第 19 条から第 21 条まで、第 33 条から第 36 条まで、第 41 条および第 42 条の規定は、本専攻科にこれを準用する。

第 53 条 その他本専攻科に関して必要な事項は、別に定める。

## 附 則

- 1 昭和 62 年 4 月 1 日 施行
- 2 平成元年 4 月 1 日 改正
- 3 平成 4 年 4 月 1 日 改正
- 4 平成 8 年 4 月 1 日 改正
- 5 平成 9 年 4 月 1 日 改正

- 6 平成 12 年 4 月 1 日 改正  
なお、改正規定は平成 12 年 4 月 1 日入学者から適用する。
- 7 平成 14 年 4 月 1 日 改正  
なお、改正規定は平成 14 年 4 月 1 日入学者から適用する。
- 8 平成 17 年 4 月 1 日 改正
- 9 平成 17 年 12 月 1 日 改正
- 10 平成 19 年 4 月 1 日 改正
- 11 平成 21 年 4 月 1 日 改正  
なお、第 18 条第 2 項の別表 1 については、平成 21 年 4 月 1 日入学者から適用する。
- 12 平成 22 年 4 月 1 日 改正
- 13 平成 23 年 4 月 1 日 改正  
なお、第 12 章専攻科の改正規定については、平成 23 年 4 月 1 日専攻科入学者から適用する。
- 14 平成 24 年 4 月 1 日 改正  
なお、第 8 章 検定料、入学金、授業料、その他の費用の改正規定については、平成 24 年 4 月 1 日入学者から適用する。
- 15 平成 25 年 4 月 1 日 改正
- 16 平成 26 年 4 月 1 日 改正
- 17 平成 27 年 4 月 1 日 改正
- 18 平成 29 年 4 月 1 日 改正



(別表1)

## 歯科衛生学科の授業科目等

科目名	単位数
<b>基礎分野</b>	
1 英語	2
2 生物学(選択)	2
3 生化学(選択)	2
4 接遇・コミュニケーション技法	1
5 国語表現法	1
6 医療心理学	2
7 コンピュータ演習	1
<b>小計</b>	<b>11</b>
<b>専門基礎分野</b>	
8 解剖学	2
9 組織学	2
10 口腔解剖学(含実習)	3
11 生理学(口腔生理学)	2
12 病理学	2
13 微生物学	2
14 薬理学	2
15 口腔衛生学・衛生統計学	2
16 衛生学・公衆衛生学	2
17 衛生行政・社会福祉	2
18 社会福祉論	2
19 統合講義(専門基礎分野)	5
<b>小計</b>	<b>28</b>

科目名	単位数
<b>専門分野</b>	
20 歯科衛生士概論(含医療倫理)	2
21 歯科疾患の科学	1
22 歯科保存学	1
23 歯周治療学	1
24 歯科補綴学	1
25 口腔外科学	1
26 矯正歯科学	1
27 小児歯科学	1
28 高齢者歯科学	0.5
29 障害者歯科学	0.5
30 歯科衛生士基本技術実習	2
31 歯科予防処置論	1
32 歯科予防処置実習	4
33 歯科保健指導論	2
34 栄養・食生活概論	1
35 歯科保健指導実習	2.5
36 歯科臨床実習(含保健指導実習)	1.5
37 歯科診療補助論	1
38 歯科理工学	1
39 歯科診療補助実習	4
40 病院実習・臨地実習	20
41 看護・介護実習	1
42 看護学概論	2
43 統合講義(専門分野)	4
<b>小計</b>	<b>57</b>

<b>選択必修分野</b>	
A群：4単位以上	
44 歯科麻酔・全身管理学	1
45 歯科放射線学	1
46 臨床検査学	1
47 専門歯科治療概論	2
<b>小計</b>	<b>5</b>

<b>選択必修分野</b>	
B群：3単位以上	
48 日本文化	1
49 手話	
50 医療保険事務	3
51 ケアコミュニケーション演習	3
52 歯科衛生研究概論	2
<b>小計</b>	<b>9</b>
<b>合計</b>	<b>110</b>

(別表 2)

専攻科歯科衛生学専攻授業科目等

科 目 名	単位数
科学論文論	2
歯科医学特論	2
コンピュータデータ解析演習 (選択)	2
食育・食指導演習 (選択)	2
専門歯科医療論	2
専攻研究	4
臨床咬合学演習 (選択)	2
地域保健指導実習	1
歯科衛生学演習	4
歯科臨床実地	10
生命科学論	2
歯科衛生士教育実習	4
<b>合 計</b>	<b>37</b>

(別表 3)

## 専攻科在宅歯科医療学専攻授業科目等

科 目 名	単位数
ケアコミュニケーション演習	1.5
在宅歯科医療総論	3
実践口腔ケア	1
歯科衛生過程（ケアプラン）演習	1
栄養と摂食・嚥下	1
全身疾患の理解と管理	1
臨床・臨地実習	2 2
コンピュータデータ解析演習	2
<b>合 計</b>	<b>3 2. 5</b>

(別表 4)

## 専攻科がん関連口腔ケア学専攻授業科目等

科 目 名	単位数
ケアコミュニケーション演習	1.5
がん関連口腔ケア学	2
実践口腔ケア	1
歯科衛生過程（ケアプラン）演習	1
栄養と摂食・嚥下	1
全身疾患の理解と管理	1
臨床・臨地実習	2 2
コンピュータデータ解析演習	2
<b>合 計</b>	<b>3 1. 5</b>